

活動テーマ

小鹿野町活性化～一泊二日滞在の実現～車中泊の普及・実施策

小鹿野町全域 小鹿野地区 立教大学

## 1 活動目的

小鹿野町を来訪する人々の滞在時間を延長し、一泊二日での小鹿野町滞在を実現することにより、小鹿野町の地域経済の活性化を実現すること。

## 2 活動地域の現状

### 1) 小鹿野町の現状・紹介

小鹿野町は埼玉県の北西部に位置し、秩父盆地の西側に市街地を形成する人口 10,298 人、世帯数、4,523 世帯（令和6年2月1日現在）、総面積 171,26 ㎥の町である。

小鹿野町には鉄道路線がないため、主要な公共交通機関は、鉄道のある秩父市からの町営・私営バスである。もっとも、公共交通機関などの交通網が発達しなかった結果、開発も進まなかったため小鹿野には、日本百名山の「両神山」、日本の滝百選の「丸神の滝」、平成の名水百選の「毘沙門水」、日本の地質百選の「ようばけ」などの豊かな自然に恵まれた地域であることも大きな特徴である。

2) 秩父地域の1市4町などで組織する秩父地域おもてなし観光公社の推計によると、コロナ前の2019年の秩父地域の入込観光客数は約900万人であり、小鹿野町への入込客は、約45万人と言われている。この数字は秩父地域全体の約5%であることから、どのようにして小鹿野町への来訪者を増やすかという問題は、秩父地域を訪れる観光客の興味関心をどのように小鹿野町にも向けさせるかという問題と表裏の関係にあるといえる。

## 3 活動内容

今年度の活動目標は以下の3つである。

第一は、車で訪れる観光客（車中泊、オートキャンプ場利用者等）向けに小鹿野町で一泊二日滞在し、来訪者が滞在時間を満喫し、滞在時間を延長できる観光資源を探すことである。これを実現するために小鹿野町を訪問し、車中泊をはじめ、車で訪れる人々向けの観光資源、体験交流スペースを探し出すこととした。このような場所がないときには創り出すことも心掛けた。

第二は、車中泊の実施可能場所を探し、広報することである。これを実現するために小鹿野町を自動車で訪問し、車中泊の実証実験を行うこととした。

第三は、農業従事者や地域の商店等と共同し、車中泊利用者への食材、お土産などを探し出し、販売商品として企画することである。これを実現するために小鹿野町の農家など第一次産業の生産者を訪問し、来訪者にパッケージとして販売できる素材を探すことである。

## 4 成果

第一については、今年度は、対象を大学生を中心とする若者とし、週末に友人同士で旅行に出かけるという設定から、いくつかの観光スポット（自然、飲食店、レジャー施設等）を選出することができ、モニターツアーを2月に実施することができた。今後、それぞれの内容の吟味を行い、それぞれの趣味嗜好にあったコースを選定していく予定である。

第二については、今年度は、車中泊、オートキャンプを実施できる場所を選定し、実際に車中泊を実施することができた。具体的には車中泊のスポットして3つの拠点を確認し、実際に利用した。みどりの村RVパーク（秩父郡小鹿野町飯田853）、両神山麓キャンプ場（秩父郡小鹿野町両神小森5432）、道の駅両神温泉薬師の湯（秩父郡小鹿野町両神薄2380）の3か所である。それぞれの利用は時季を異にしながら、各場所において、一度の訪問であったため、車中泊を実施するに際して、季節に応じて、異なった課題が生じることを確認していない点が課題である。次年度は時季を異にしながら、それぞれの車中泊スポットを利用し、季節に応じたメリット・デメリットを洗い出し、解決策を講じる予定である。

第三については、車中泊利用者向けにキャンプ飯をパッケージ化すること、あるいは味噌づくり体験などを企画することにより、観光消費額を増加させることを試みたい。具体的には、小鹿野の郷土料理の一つとして、「おっきりこみ」を見つけ出し、これをキャンプ等でも簡単に作れるようにパッケージ化することを検討している。商品作成に当たり小鹿野地域の住民の方々の意見や助言をもらいながら、施策を重ねることができている。味付けを含め、車中泊利用者にとって気軽に作れるような商品を作ることができるかが次年度の課題といえる。

上記3つを遂行するうえで重要なことが小鹿野地域の人々との信頼関係を構築することと、上記活動に理解を示して協力してくれる人を増やすことである。

このための前提条件が信頼関係の構築である。最も難しいともいえるが、小鹿野地域での各種ボランティア活動にこれまで通り積極的に参加し、主体的に行動することを毎月繰り返してきたことにより、私たちの活動に理解を示し、協力して下さる方も増やすことができた。また必要に応じて人を紹介して下さるまでに信頼関係を構築することができた点が大きな成果といえよう。今後も人間関係を大切にしながら、地域の人々にとって貢献できるような活動を続けていきたいと考えている。

## 5 課題

このような成果を上げることもできてはいるが、一方で課題も多く残っている。ここでは二つを挙げておこう。

第一の課題は、車中泊を実施するうえで必要な車を持っている学生が少なくレンタカーを利用せざる終えない場面が増えていることである。大学の規程により、レンタカーの利用は教員と大学院生に限るとされていることから、車中泊を実施する際の車の調達をどのようにするかが、今後の検討課題といえる。

第二の課題は、前述のごとく小鹿野町の知名度に関わるが、小鹿野町の広報をどのようにするかという点である。コロナ前の2019年の秩父地域の入込観光客数は、秩父地域

全体の約 5%（45 万人）であることを考えると、東京や他の地域に向けて小鹿野町をアピールするよりは、秩父市に來訪する観光客に向けて小鹿野町の魅力を打ち出し、秩父市の延長線上で、小鹿野町に興味関心を持ってもらうことも重要であると考えている。

車中泊を前提にしているが、まずは小鹿野町の知名度を上げるために様々な方策を考えていきたいと思う。具体的には、小鹿野町単独での観光コースを作るのではなく、1市4町の特徴を最大限に生かしたコースを作ること、あるいは1市4町に共通する観光資源を繋ぎ合わせるにより、地域連携を促すことを検討している。そのうえでJRや西武鉄道の協力を得て、秩父駅、西武秩父駅においてもらうことなども検討したいと考えている。

## 6 次年度以降の計画

次年度の計画としては、上記のごとく 3つの課題について、解決策を講じることと、秩父圏域の1市4町（秩父市、横瀬町、皆野町、長瀨町、小鹿野町）が連携する定住自立圏構想を活用して、新たな価値を生み出す仕組みを考えていきたいと思う。



以上